View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Kwansei Gakuin University Repository

2013年
12月19日
木曜日

ディーセント・ワーク
―忘れられた非正規労働者

西村　智　教授（労働経済学）

ディーセント・ワークという言葉をご存じでしょうか？ディーセント（Decent）を辞書で引くと「まともな」とあるので、ディーセント・ワークとはまともな仕事という意味になります。まともな仕事とは何か？はひとまず置いておき、この言葉がでてきた背景をご説明します。

グローバル競争が加速化し、激しい価格競争が繰り広げられる中で、労働者の権利の軽視、所得格差の拡大、失業者の増加（日本では非正規労働者の増加）など深刻な問題が増えてきました。最近では、ブラック企業が社会問題になっていますね。これらの問題を改善すべく、ＩＬＯ（国際労働機関）が１９９９年の総会で21世紀の目標として掲げた言葉がディーセント・ワークだったのです。

では、話をもとに戻して、まともな仕事とは何でしょうか？厚生労働省はディーセント・ワークを「働きがいのある人間らしい仕事」と訳しています。一口に働きがいといっても何によって働きがいを感じるかは人によってさまざまです。仕事が面白いか、納得できる給料、快適なオフィス空間、よき人間関係、重要な役割を任されること、仕事への評価……などなど。しかし、確実にいえることは、この中のどれかが著しく欠けてはいけないということです。例えば、仕事は面白く、評価もされているが給料がとても納得できるレベルではないケースや給料には満足できるが、上司に絶対服従で不正を行うように強要されるケースを想像してみてください。

ブラック企業で働く正規労働者もそうですが、非正規労働者の場合、そのほとんどの労働がディーセント・ワークからはほど遠いものです。多くが年収２００万円以下、有給休暇等の制度が使えない（そもそも権利がないか、あっても使える雰囲気ではない）、８割弱は期限のある契約です。最近は、若い非正規労働者も増えていますから、非正規でも育児休業が取れるかは重要な問題です。しかし、妊娠がわかった人のうち育児休業を取得した割合は正規労働で61％なのに対して非正規労働ではたった12％です。彼らが育児休業を取ることができないのは、休んだらただでさえ低い収入がより低くなるから取れない、そうでなければ、取りたくても職場の理解がないというものです。

安上がりの非正規労働者を増やすことは一見、効率的なことのように思えます。しかし、彼らの尊厳を軽視することで非効率的になる可能性があります。独自にインターネット調査を行った結果、ディーセントな働き方ができない非正規労働者は、早期離職、欠勤という行動をとりがちであることがわかりました。これは企業にとってもマイナスです。では、どうすればよいのでしょうか？企業はグローバル競争の中で生き残らなければならない一方で、従業員の非人間的な働き方を変えなければならない。解決策としては、労働市場をより流動的で競争的なものにすることが挙げられます。これによって、正規労働者のリストラは増えますが、非正規労働者の待遇改善は期待できます。ただし、リストラが増える分、今よりもしっかりしたセーフティーネットが必要になります。政府支出を増やすことに抵抗があるかもしれませんが、労働市場が流動的になればかえって効率的になることもあります。私たちは、このことについてもっと議論をするべきだと思います。誰もが、（望めば）子供に教育を受けさせ、家族を扶養することができ、30～35年ぐらい働いたら、老後の生活を営めるだけの年金がもらえるような社会*を目指して。■

＊フアン・ソマビアＩＬＯ事務局長の言葉